

自伐型林業研修（丸太の集材作業） 主催 地球の仕事大學
平成29年6月19日から20日 埼玉県飯能市 日本自動ドア研修施設

2月から始まった「自伐型林業研修」4回（一泊二日）の最終回に参加してきました。林内作業車の故障で日程が入れ替わった関係で、6月まで講習が延期されていたものです。講師は山口氏 山口祐助（やまぐち ゆうすけ）1958年生まれ。兵庫県篠山市在住。

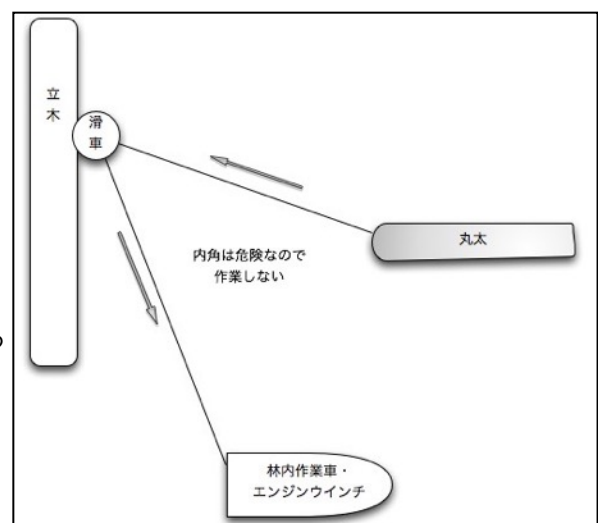
兵庫県に約180haを所有し、作業道を高密度に張り巡らせて、抜き伐りで効率的な木材生産や、針葉樹と広葉樹を混生させた整備を進めている純粋な自伐林家。優れた森林経営が評価され、平成20年の全国林業経営推奨行事（大日本山林会、全国林業改良普及協会主催）において林野庁長官賞を受賞。伐倒から運搬、作業道敷設まで、すべての林業施業の作業を一人でこなすことができるオールラウンダー。

今回の研修で講師をしている方は皆さん、自分の山を持ち自伐型林業で生計を立てている山師です。そして、優しい教え方で失敗をしても怒ったりしない、心の広い方ばかりでした。普段から自然を相手にしている仕事なのでおおらかで、優しさを感じました。

19日は90分ほど木材の搬出作業について講義がありました。山口さんの出身地は丹波篠山と呼ばれているが、丹波を取って篠山という地名にする動きがあるようです。有名な丹波の黒豆は実は篠山で作られているので、地名変更するということでした（あまり関係ない話し）

山口氏は育林が仕事で、以前は育てた杉や桧を山ごと売っていたのですが、今は伐材・搬出作業まで自分で行っているそうです。それも1人で！本当は1人の作業は危険だと思います。私も佐久の森で作業するときには「チェーンソー」を使って伐材するときは必ず誰かがいるときに行っています。

チェーンソーが跳ねたり、木が倒れかかったり、何が起こるか分かりませんので、危険な作業の時には仲間がいるときに行います。それを山口さんは一人でこなしているというのですから、大変だと思います。講義の中では「木材の重さ」の目安や材積の計算方法そして、木材搬出の危険性（内角へ進入しない）などを図を示して説明していただきました。実際には午後から翌日の夕方まで森の中で実地で学びました。私たちはこの研修の三期生（平日コース）で、各コース15名定員でした。これで、三回休日・平日コースがあったので、約90名の研修が終わったところです。第一期生で参加した八王子の方が毎回お手伝い（アシスタント）で参加しています。彼が私たちが座学している間にユンボで作業道の拡張作業を行っていました。ところが、道幅が狭いためにキャタピラが外れてしまい、山の中で120分も一人孤軍奮闘！でも重くて大きいキャタピラをはめることは出来ませんでした。そこで、ユンボのアームで車体を45°傾けて、キャタピラをフリーにして人力で埋めるように私が指示！本人は慌てていて冷静に判断できない状態でした。5分ほどで無事にキャタピラを納めることが出来たのでこれで、作業が再開できます。一人での作業は本当に危険です。もしも、このようなアクシデントがあったら、里ま



で助けを求めに行くことになります。怪我をしたら人命にも関わる事もあるので

午後からは林内作業車（やまびこ 約200万円）の操縦、ウインチなどの作業操作、丸太の載せ方や寄せ方、土場（木材集積場所）での積み卸し作業などを実習しました。増田理事運転上手です。正式名称は「全載型横積み小型運材車」ディーゼルエンジン。

3月に伐倒した杉・桧の丸太が森の斜面に転がっていますので、それを3mに玉切りして、作業道に集材します。やり方は前のページにイラストで示したように、滑車とワイヤーロープを使って引っ張ってきます。昔は馬や人力で作業していたそうですが、現在では林内作業車が軽架線（ワイヤーを張って、丸太をつり上げひく方式）が主な方法です。軽架線方式は（ここでは土佐の森方式）安全性に問題があるので、林内作業車を使用しました。佐久での作業は平坦な場所で、あるので、竹井さんにアメリカで購入していただいたエンジンウインチとザイルそして、スキッターコーンを使って集材する予定です。

さて、実際の作業を説明しましょう。伐倒した杉材・桧材は山の急斜面に倒れているので、まずその丸太を3mに玉切りします（出荷サイズ）根本からだんだん細くなるので、丸太の直径が10cmぐらいまでのところまで、切っていきます。そして、作業道に林内作業車を設置、集材する場所の近くの木に動滑車を高いところに付けて斜面に散乱している丸太を引き寄せていきます。そして、作業車の横に丸太を載せて、ウインチで巻きワイヤーで固定します。この作業全体で重要なことは複数の人が関わるので、合図を統一すること、ワイヤーの巻き取りや送り出しの作業を確実に行うこと。林内作業車は丸太をひいているときに大きな負荷がかかるので、操作を誤ると破損してしまうので、細心の注意が必要です。土場に積み上げた丸太を見て、とても大きな充実感がありました

16時に作業終了！ 道具を片付けて、解散

今回の研修で全ての研修を終了しました。この技術と知識を活かして、佐久の森の再生を行いたいと思います増田理事もお疲れ様でした。 高森

